

文武両道の努力実る

飯田高
ラグ班

3年生次々に現役合格

昨年十二月の全国高校ラグビー大会出場を果たした飯田高校ラグビー班三年生のうち、

をよよく乗り越えてくれた」と目を細めている。

イを決めた小川、利貴君が早稲田大学スポーツ科学部にそれぞれ合格。このほか、班長の

主将を務めた梅村謙

格。このほか、班長の

五人が国立大学等への現役合格を決めた。他の六人も合格を目指して現在挑戦中。文武両道の努力が実った三人

太郎君が信州大学医学部、高校日本代表候補に選ばれた片桐康策君

仲平凌君が東京工科大学、動車大学校世田谷校、塩沢和也君が東京薬科大学薬学部

に、顧問の湯澤一道監督も一難しいハードル

群、左目失明のハン

が筑波大学体育専門学

で、顧問の湯澤一道監督も一難しいハードル

群、左目失明のハン

が筑波大学体育専門学

で、顧問の湯澤一道監督も一難しいハードル

群、左目失明のハン

が筑波大学体育専門学



(左から)片桐君、梅村君、小川君

かけて医学に興味を持ったという梅村君は、二年生後半に首を痛め医師から「もうラグビーはやめた方が良く」と忠告されながら

も、首回りを鍛えて三年間のラグビー生活をまっとうした。医学部を本格的に志したのもこのころ。昨年十二月に入ってから午前二

一助になりたいと地域

への貢献も考えている。

時まで勉強し、花園終了後は一日十五時間近くを勉強に注いだ。ラグビーも勉強も真剣に打ち込む梅村君の姿は他の班員にも影響を与え、班活動終了後に梅村君の自宅へ集まって日付が変わるまで合同勉強する光景は「梅村塾」と称された。

小川君もラグビーを続け、片桐君が進む筑波大と関東リーグで対戦することを心待ちにしている。将来はスポーツトレーナーなど、スポーツに関わる仕事に就きたいと目標を掲げている。

片桐君は筑波大進学後もラグビーを続け、当面の目標は一年生でレギュラーを奪うことだと力強く明言。将来は社会人チームの頂点、さらには日の丸を背負ってワールドカップに出場したいと、さらなる高みを目指している。